講演

演　題

「地理歴史科・公民科のアクティヴ・ラーニング　ー教室に社会を，　教室を社会にー」

広島大学大学院教育学研究科教授　　池野範男 先生

０　問題の所在

この講演のねらいは，中等社会系教育の授業改革をどのようにしてきたのか，仮説的に設定し，その動向の方向性を確認した上で，21 世紀に入った近年の傾向を，アクティヴ・ラーニングの要素から検討し，現行の達成状況の特質を把握することである。

どこまできているのか。結論としては，社会科の理念，Social Studies（「社会の学習」，「社会の研究」）の方に行こうとしている。 それを行うことによって学習者の活動を保証しようとしている。それを生徒が獲得している。ただ学習結果の表出とか達成評価と言われるとなかなか難しい。それがルーブリックになっている。学習者中心になるからよけいにしないといけないという形になっている

１　中等社会系教育の変革に関する仮説

２　中等社会系教育の現状と課題

３　地理歴史科・公民科教育の改革

３．１ 改革（１）事実や知識の学びから，学びの学習へ

３．２ 改革（２－１）AP 教育，IB 教育

３．３ 改革（２－２）シティズンシップ教育としての地理，歴史，公民の教育

４　学びの質からの改革動向の検討

５　結論

現在の状況は，社会科のなかで教室に社会を持ち込んで，社会科がもっていた Social Studies 的なものを実現しようとしてきていることである。

もう１つ大事なことは，学習者の活動を保証してより達成評価をしようという。その時に見方考え方を持ち込むことによって，それをできるようにしようということである。ただ単に，最後の結論の知識や技能や思考だけでなく，何を持ち込めばそれができるか。見方・考え方ではないのか。

問題はアクティヴ・ラーニングのなかの協働性や能動性は満たしやすいが，質的深さは保証ができないしくみになっていることである。であるので，どうしたら学びの質が保証できるのか，質が高いものになるのか。私は，考え方だとか，問いを連続的にする，といったことを提唱しているが，それをどのように皆さんと作っていくのかが課題である。

先生方には今後，ぜひ２つのことを考えてほしい。

次期学習指導要領は，中学校は 2017 年３月に，高等学校は 2018 年に出る予定である。公開されるときに考えてほしいことは，１つは，見方・考え方に，本当に納得できるのか。

もう１つは，中学校と高等学校の差を見てほしいこと。小学校と中学校の連続性が高校とどう結びついているかをみてほしい。そうしなければ，質的深さも見えてこないだろう。より子どもたちに力が育成されるように，より頑張っていただきたい。

私としては，見方・考え方に賛成派で動いているので，反対派に人たちからいろいろ意見をいただくことがある。しかし，反対派の人たちに言いたいことは，１つに，何をどうするのか，特に知識派の人に対して，知識を中心にやろうとして，知識だけで済ますことができるのか，思考や態度はどうするのか，ということである。もう１つは，公民的資質を，地理や歴史ではどうするのか，ということである。

今までははっきり言って地理や歴史は放棄してきた。特に歴史は，である。古代を教えるときに，藤原道長を教えるときに，公民的資質とか全く考えてこなかったが，どうするのか。こういうことを考えてほしい。